

教会の門は開かれています

いつでも、どなたでも、遠慮なく教会へお越しください。

ミサについて

毎日曜日、ミサ（礼拝）が行われます。
ミサには、どなたでも自由に参加できます。
ミサはキリストの最後の晩餐に由来し、カトリック教会の中で一番大切な祈りですので、静かにご参列ください。

※ 聖堂入口に「案内係」の腕章をつけている人がいますので、声をおかけください。ご案内いたします。

入門講座

日曜日のミサ後に行われます。詳細はお問い合わせください。

聖書研究会

神様やイエス様のことをさらに知りたい方は「聖書研究会」にご参加ください。日程はお問い合わせください。

教会学校

月2回、小学生を対象に日曜日のミサ後に行われます。お休み期間やイベントもありますので、詳細はお問い合わせください。

主日のミサ

毎日曜 午前9時30分（日本語）
第2日曜 午後1時30分（タガログ語）
第4日曜 午後1時30分（英語）

週日のミサ

水・木・土曜 午前6時50分（日本語）
金曜 午前10時（日本語）

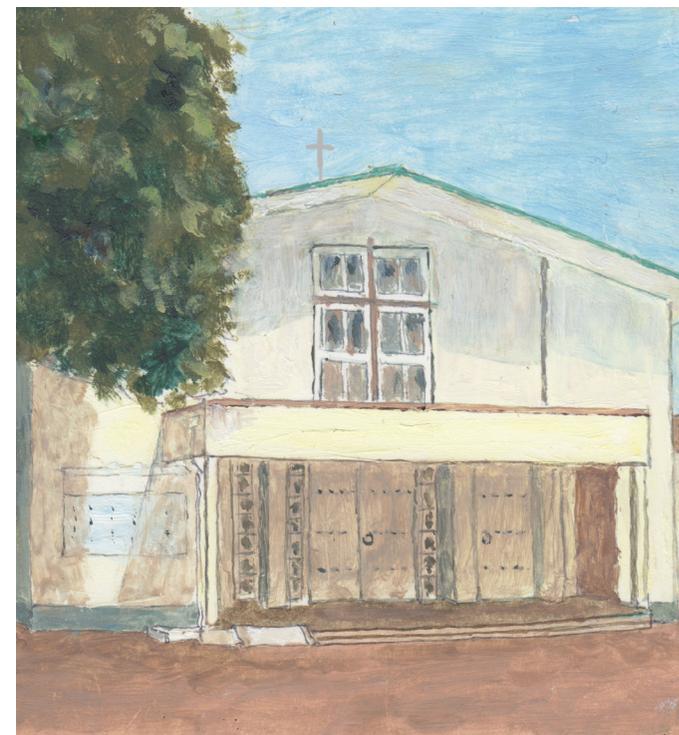
カトリック小岩教会案内図



JR小岩駅北口より徒歩8分
京成小岩駅南口より徒歩15分

聖ボニファチオ カトリック小岩教会

ご案内



〒133-0057 東京都江戸川区西小岩4-4-1
TEL: 03 (3657) 0656
FAX: 03 (3657) 8696
<http://www016.upp.so-net.ne.jp/koiwa-iwao/>



カトリック小岩教会

小岩教会は、1954年に本所教会の準教会として発足、1956年に小教区となりました。発足当時の信者数は約30名、現在は700余名です。

聖堂は、1958年5月5日にドイツ・ケルン大司教区の多大な援助によって建てられ、ドイツの守護の聖人「聖ボニファチオ」を保護の聖人として戴いています。

2008年5月5日には献堂50周年を迎えました。その記念としてケルン大司教区より聖ボニファチオの聖遺骨を頂き、2009年6月7日、故・白柳誠一枢機卿の司式により聖堂内に安置されました。

※「ボニファチオ」はイタリア語読みで、ラテン語およびドイツ語では「ボニファティウス」、英語・フランス語では「ボニファス」と呼びます。

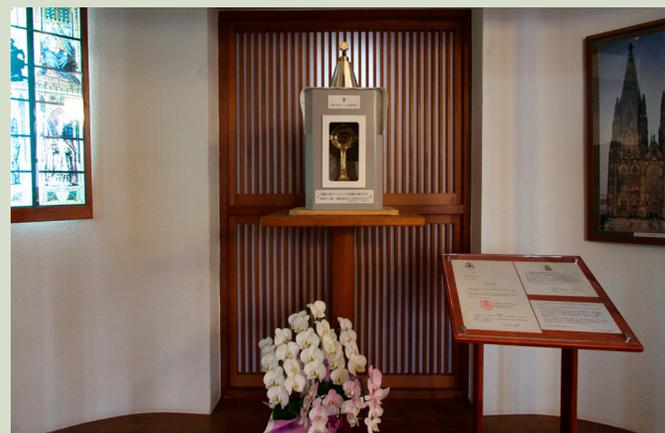
聖ボニファチオ司教殉教者

「ドイツの使徒」とも呼ばれる聖ボニファチオは、672年頃に英国デヴォンシャーのクレディトンで生まれました。

修道院附属の学校で教育を受けた後、ベネディクト会のナースリング修道院に入り聖書の研究をしました。30歳で神父となり、宣教師としてゲルマン民族（オランダ・ドイツ）への布教に携わりました。718年にローマに行き、当時の教皇グレゴリオ2世の祝福を受けて「ボニファチオ」（善をなす人）の名を授けられました。

その後、チューリングゲン、ヘッセン、フルダなどに修道院を建て、722年に教皇によって叙階され、ドイツの司教となりました。

聖ボニファチオは、52人の宣教師とともにフリースラントにおいて布教の最前線で働いていたとき、754年6月5日の聖霊降臨祭にドックムで異教徒に襲われて殉教したとされています。このため、聖ボニファチオの記念日は6月5日とされました。



聖ボニファチオの聖遺骨は聖堂内に安置されています。

聖ボニファチオの遺骸はしばらくユトレヒトにありましたが、やがてフルダの修道院に埋葬され、現在ではフルダ司教座聖堂の祭壇下の地下聖堂に霊廟が置かれています。

教会印について

小岩教会の教会印は木と斧のマークです。これは次の出来事に由来しています。

724年にドイツ北部のフィツラーで、村人たちが「雷神トール」の宿る神木として崇拝していた樅の木を、聖ボニファチオが切り倒しました。人々が「天罰が下る」とかたずを呑むなか何事も起こらず、村人たちは迷信の夢から覚め、聖ボニファチオを尊敬して続々と受洗したそうです。

なお、このときに周囲の木々も下敷きとなって倒れたにもかかわらず、若いモミの木が一本だけ倒れずに残っていたと言われています。それを見た聖ボニファチオは「これから私たちは“モミの木”を、幼子イエス・キリストと呼ぶことにしよう」と言い、それがクリスマスツリーの発端になったと伝えられています。

